

【まとめ】 ビグアナイド剤の血中乳酸値異常は高率であり、内服開始後 10 ヶ月は定期検査が必要と思われる。

16 2型糖尿病患者における食後高脂血症治療の意義（第4報）— ジアシルグリセロールの効果 —

中村 宏志*, ***, 中村 隆志**, ****

中村医院内科*

中村医院薬剤部**

新潟大学大学院医歯学総合研究科
器官制御医学***

新潟薬科大学薬理学教室****

【目的】 ジアシルグリセロールが2型糖尿病の食後高脂血症に対して実際に効果があるかについて検討した。

【対象と方法】 ① 2型糖尿病患者 8 名にサラダ油で作ったドーナツ 120g を摂取させ、前、2 時間後、4 時間後の血糖、TG を測定した。同対象者に別の日にジアシルグリセロールが主成分の油で作ったドーナツ 120g を用いて同検査を施行した。② 2型糖尿病患者 15 名を対象に、調理用油をジアシルグリセロールが主成分の油に 6 ヶ月間変更し、HbA1c、体重、TC、HDL-C、TG、RLP-C を測定した。

【結果】 ① サラダ油のドーナツに比して、ジアシルグリセロール油のドーナツを摂取した後の血糖、TG の増加が有意に抑制されていた。② 調理用油をジアシルグリセロールに変更した 3 - 6 ヶ月後に HbA1c、体重、TC、HDL-C、TG、RLP-C がいずれも有意に減少していた。

【結論】 ジアシルグリセロールは、摂取後の TG の増加が軽度であり、体重や血糖コントロールにも良い影響を及ぼす可能性がある。

17 グリメピリドの短期効果

宗田 聡・宮腰 将史・上村 宗

平山 哲・羽入 修・鈴木 克典

相澤 義房・中川 理*

新潟大学大学院医歯学総合研究科

内分泌・代謝分野

厚生連三条総合病院*

【目的】 軽症 2 型糖尿病患者に対するグリメピリドのインスリン抵抗性改善作用について検討した。

【方法】 外来軽症 2 型糖尿病患者 12 名に対しグリメピリド 1mg を 7 日間連続投与した。投与前後に 75g 経口糖負荷試験を施行し、HOMA-R、Insulinogenic index、血糖曲線下面積、インスリン曲線下面積などについて比較検討した。

【結果】 少量のグリメピリド投与することによって、短期間でも血糖降下作用、インスリン抵抗性改善作用が認められた。インスリン抵抗性を有する群（HOMA \geq 2）において、有意なインスリン抵抗性改善効果に加えて、早期インスリン分泌促進作用を認めた。

【結語】 インスリン抵抗性を伴った軽症 2 型糖尿病患者にグリメピリドは有用であると示唆された。

18 Clomiphene 無効の多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) に対する metformin 併用療法の有用性の検討

倉林 工・萬歳 淳一・永田 裕子

加嶋 克則・鈴木 美奈・八幡 哲郎

藤田 和之・田村 正毅・田中 憲一

鈴木 克典*・中川 理*

新潟大学医学部産科婦人科

同 第一内科*

【目的】 clomiphene (C 剤) 無効の PCOS 症例に対して、インスリン抵抗改善薬の metformin (M 剤) が排卵障害を改善するか検討する。

【方法】 C 剤 100mg 5 日間を 2 コース以上行っても無効であった排卵障害による不妊 PCOS 女性 13 名を対象とした。1 コース目は D3 から M

剤 500mg 14 日間で併用し、2～3 コース目は D5 から C 剤 100mg 5 日間で併用した。

【結果】(1) M 剤単独 (1 コース目) では排卵誘発が不可能であった。(2) M 剤 + C 剤の併用 (2～3 コース目) では、インスリン抵抗性を改善し、11/13 症例 (85%)、14/25 周期 (56%) に排卵を認め、1 例が妊娠した。(3) 卵巣過剰刺激症候群や M 剤による副作用は 1 例もなかった。

【結論】M 剤は C 剤との併用により、C 剤無効 PCOS の排卵障害を改善するが、有効な投与方法等についてさらなる検討が必要である。

19 当科における血管再生治療の現状

加藤 公則・小澤 拓也・真木山八城
西川 尚・相澤 義房
新潟大学大学院医歯学総合研究科
循環器学分野

【目的】血行再建不可能な閉塞性動脈硬化症・ビュルガー病の 8 例に対し骨髄細胞移植 (BMI) を施行し、効果不十分な 2 例、両側に病変をもつ 1 例対して、BMI 後に末梢血単核球移植 (PBCI) を追加したので、その結果を報告する。

【対象】安静時疼痛や潰瘍を有する Fontaine 分類Ⅲ・Ⅳ度の患者で、担癌患者ではないこと、冠動脈に有意狭窄がないことを確認している。

【結果】BMI によって、足関節上腕血圧比は 0.74 ± 0.15 から 0.85 ± 0.15 へ、組織酸素分圧 (TcO_2) は 26 ± 6 から 35 ± 5 mmHg へ上昇し、全例自覚症状もしくは潰瘍の改善を得た。さらに、PBCI を追加した 3 例においても、BMI 後に上昇した TcO_2 の更なる改善を認めた。

【まとめ】BMI は、難治性下肢虚血患者に対して有効であった。また、PBCI を用いた追加治療も有効と考えられた。

Ⅱ. 特別講演

「糖尿病性虚血下肢への骨髄細胞移植を用いた血管再生治療」

関西医科大学第 2 内科 助教授

松原 弘明

第 72 回膠原病研究会

日時 平成 13 年 6 月 27 日 (水)
午後 6 時～
会場 新潟大学医学部
有壬記念館

I. 一般演題

1 ステロイド抵抗性で、約 2 年の経過で、中心静脈栄養、腎ろうを中止しえた難治性ループス腸炎、ループス膀胱炎の 1 例

佐藤 牧・関口 珠美・神田 健史
濱 ひとみ・貝津智佳子・伊藤 由美
大淵 雄子・田辺 嘉也・伊藤 聡
宮島 憲生*・車田 茂徳*・米山 健志*
渡辺 竜助*・小原 健司*・筒井 寿基*
波田野彰彦*・斎藤 和英*・高橋 公太*
中野 正明**・下条 文武

新潟大学大学院医歯学総合研究科
腎膠原病内科学分野 (第二内科)

同 腎・泌尿器病態学分野

(泌尿器科)*

新潟大学保健学科**

症例は 30 歳女性。1996 年下肢の皮下出血で近医を受診し、ITP と診断された。抗核抗体が陽性であった。1999 年 7 月 12 日、上腹部痛、微熱、悪心・嘔吐が出現し 18 日、近医に入院。下痢と腹部膨満感も出現し、7 月 31 日の CT で腹水と腸管浮